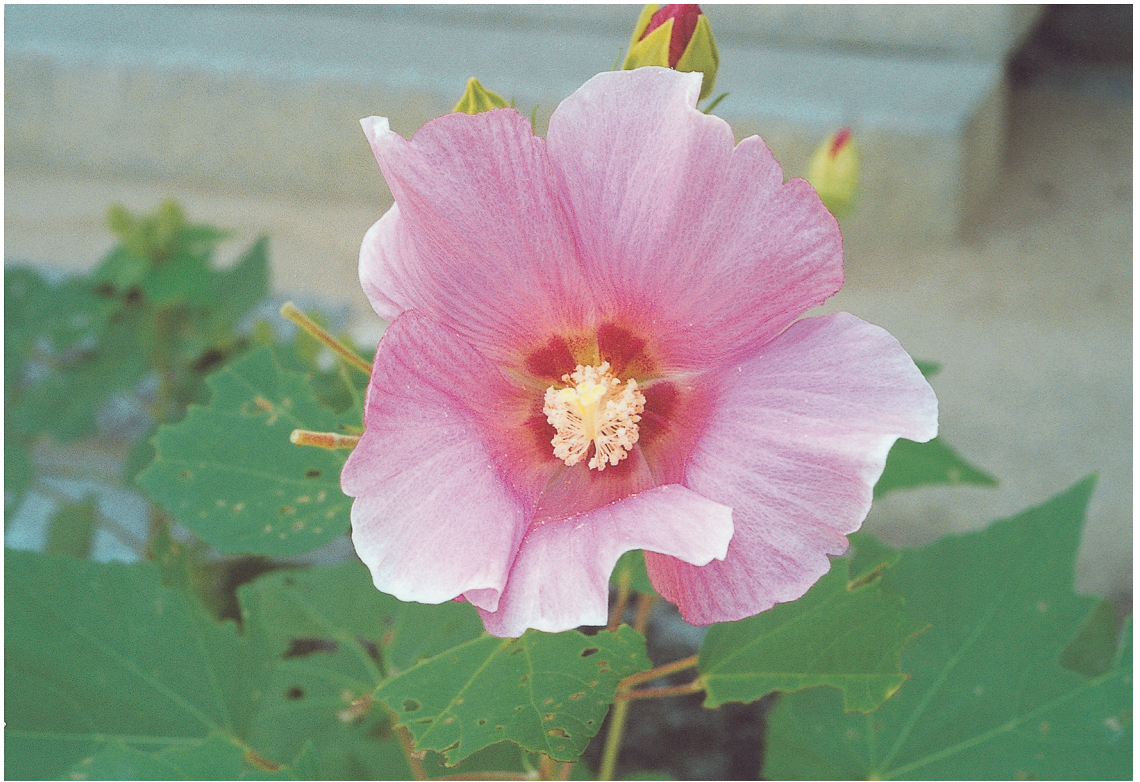

福 井 県 医 師 会

だまり

第544号 平成18年(2006)10月



表紙写真説明：橘寺の酔芙蓉

聖徳太子生誕の地として知られる、奈良県明日香村の橘寺は、かつては四天王寺、法隆寺らとともに聖徳太子創建7カ大寺の一つに数えられた。雷火、焼討により昔日の面影は失われたが、春は桜、秋は樹高2m余りの酔芙蓉が境内に咲き乱れ、訪れる人々の目を楽しませている。

福井市 吉村 信

旅先で思ったこと

監 事 中 瀬 裕 介



平成14年7月号の福井県医師会だよりの医縫録に、「突然の入院」の題名で掲載させて戴きました折に「会員の先生方に暖かく見守って下さい」と懇願を申してから、早なのか、ようやくなのか、以来4年の歳月が経ちました。その間、当時の丸岡ブロックの先生方をはじめ、坂井郡医師会、県医師会の先生方に随分助けられ、今日に至りましたことに改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、その間、少しずつ、少しずつ医療業界が変化し、気が付くと大きく様変わりしている状況に納得できないものを感じているのは、自分だけなののでしょうか？ 自分が年を重ねたせいなのか？ 今こそやせ我慢のしどころなのか？ 困惑の日々を過ごしているのが現況です。

さて、私ごとで恐縮ですが、過日、愚息がグアムにて拳式すると云うので、高温多湿の地へと飛び立ちました。たまたま持参した単行本が、藤原正彦著の「国家の品格」でした。どうもすぐ感化されやすい性格なののでしょうか？ 島内のアメリカ系白人、機内で大声で話している白人、職種は異なっても彼らの言動は、まさにわが世の春と云わんばかりの横柄さであり、カッカッと頭から湯気を立て、ますます身も心も熱くなりました。

一方、現地の人から見れば、日本人もまた同様に思われているのでしょうか？

また、「自由」「平等」という「カッコいい言葉」は、この地球上には永遠にないのではないかと考えさせられました。

ぼんやりサランベッドに横たわっていると、足元の白い砂浜を、逃げるでもなくチョロチョロ歩く小さなヤドカリ、手を伸ばせば、すぐえる浅瀬の小さな魚、エメラルドグリーンの美しい海、こんなにもおだやかで美しい自然。かつてこの地で戦った各国の兵士の目には、どのように映り、どのような想いがあったのでしょうか。

海の色、海岸の様子の違いはあっても、まだどこかおだやかで砂浜に残っていた故郷の海を思い出し、岩場で足の裏を切ったのにも気付かず、夢中で遊んだ子供の頃の情景がわきあがり、つい過ぎし日を振り返りながら何か懐かしい思いがこみあげてきました。

いろんな想いを抱きながら、ともあれ、エコノミックシンдрームにもならず、過酷とも思えるホテル内の冷房と乗り物の冷房から身を守り、意外と早く現地の環境に順応し、海辺・プールサイドでと久しぶりにのんびりと休日を楽しむことができ、今更ながら健康の有難さを痛感いたしました。

来年、還暦を迎えますが、体力・気力・知力の衰えた今こそ、初心を忘れずに「医の心」を第一に掲げて、今までとは別の方向から少しずつ医療を見直してまいりたいと思っております。しかしながら、「団塊の世代」は死ぬまで「団塊の世代」のような気がしております。

以上、思いつくままペンをとりましたが、どうぞ今後とも、変わらぬご指導とご鞭撻を賜われますよう、よろしく願い申し上げます。